

令和6年度 墨田区立文花中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 遠藤 博則

学校教育目標	「チーム文花中として、生きる力（豊かな心、確かな学力、健康・体力）を伸ばし、社会に貢献できる生徒を育む学校」を目指す。
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かる」「できる」「楽しい」が実感でき、確かな学力が身に付く学校 ・一人1台のタブレット端末やICT機器の効果的な活用により、教育DXを推進する学校 ・人権を尊重し、夜間学級との交流など、多様な文化の理解を積極的に推進する学校 ・チーム文花中として学校・家庭・地域が力を合わせ共に歩む学校
目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・人権を尊重し、自他を大切にしている生徒 ・毎日の授業や家庭学習を大切に、自ら学び・考える生徒 ・心身共に健康で何事にも粘り強く取り組む生徒・国際社会の一員として、社会に貢献できる生徒
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する教育的愛情と、教職に対する情熱・誇りをもち、協働できる教師 ・高い指導力をもち、生徒の生きる力（豊かな心、確かな学力、健康・体力）を伸ばせる教師 ・教育公務員として職責を自覚し、常に研鑽に励み、サービスの厳正を図ることができる教師

○令和6年度 学校経営計画における重点内容

- ・「分かる」「できる」「楽しい」が実感でき、確かな学力が身に付く学習指導
- ・いじめ・不登校の対策強化
- ・自主的な活動の促進と感動ある学校行事の創造
- ・保護者・地域に開かれた学校づくり

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	○「分かる」「できる」「楽しい」が実感でき、確かな学力が身に付く学習指導を実現する。 ①個々の学力にあった授業の実施。 ②学習内容に応じて、タブレット端末を活用した授業を実施。	①TTや少人数授業の実施、クラス分けテストの年2回の実施。 ②昨年度行った実技研修を生かした個別最適な学びの実現に向けたICT機器の活用。	4	教員アンケートで「個々の学力にあった授業ができた」等の肯定的な回答90%以上	4	年2回の生徒アンケートで「授業が分かりやすい」等の肯定的な回答90%以上	TTや少人数授業の実施、クラス分けテストの年2回の実施により生徒の実態に合わせた授業を行った。昨年度行った実技研修を活かし、個別最適な学びの実現に向けたICT機器の活用に取り組んだ。	日本語の理解力、習熟度によりクラス編成が行われているため学習過程を編成する時に生徒の実情に合わせた工夫をする必要がある。授業中、手元にタブレット端末があることで情報を適宜活用できるため、現状の学習状況を継続する。	A	A	先生方の人数が限られている中、生徒たちへの手厚いケアがなされていることを感じます。また、タブレット等ICTをさらに活用することにより先生、生徒両方が楽になればいいと思います。
			3	教員アンケートで「個々の学力にあった授業ができた」等の肯定的な回答80%以上	3	年2回の生徒アンケートで「授業が分かりやすい」等の肯定的な回答80%以上					
			2	教員アンケートで「個々の学力にあった授業ができた」等の肯定的な回答70%以上	2	年2回の生徒アンケートで「授業が分かりやすい」等の肯定的な回答70%以上					
			1	教員アンケートで「個々の学力にあった授業ができた」等の肯定的な回答70%未満	1	年2回の生徒アンケートで「授業が分かりやすい」等の肯定的な回答70%未満					
			4	教員アンケートで「ICT機器を効果的に活用できた」等の肯定的な回答が90%以上	4	年2回の生徒アンケートで「先生はICT機器を使って分かりやすい授業をしてくれる」等の肯定的な回答90%以上					
			3	教員アンケートで「ICT機器を効果的に活用できた」等の肯定的な回答が80%以上	3	年2回の生徒アンケートで「先生はICT機器を使って分かりやすい授業をしてくれる」等の肯定的な回答80%以上					
			2	教員アンケートで「ICT機器を効果的に活用できた」等の肯定的な回答が70%以上	2	年2回の生徒アンケートで「先生はICT機器を使って分かりやすい授業をしてくれる」等の肯定的な回答70%以上					
			1	教員アンケートで「ICT機器を効果的に活用できた」等の肯定的な回答が70%未満	1	年2回の生徒アンケートで「先生はICT機器を使って分かりやすい授業をしてくれる」等の肯定的な回答70%未満					
	特別な支援を必要とする生徒に対して組織的な支援を行う。 ①スクールカウンセラーとの連携、特別な支援が必要な生徒に対する支援。 ②全教員による特別な支援を理解した指導。	①毎月の特別支援委員会の開催、年2回の教育相談の実施、通訳介助を活用しスクールカウンセラーとの連携 ②特別支援委員会を中心に、支援が必要な生徒を対象とした、個別指導計画の作成	4	特別支援委員会で情報共有と対応検討が10回以上	4	学校関係者アンケートで「学校は特別支援教育に良く取り組んでいる」等の肯定的な評価が90%以上	毎月の特別支援委員会の開催、年2回の教育相談の実施により、生徒の不安は大部分解消できている。特別支援委員会を中心に、支援が必要な生徒を対象とした個別支援計画を作成して支援を行った。	通訳介助とスクールカウンセラーの連携を強化し、様々な国籍の生徒の支援を継続する。積極的に情報共有することができているがさらに研修や情報の共有の機会を増やせるとよいと思う。	B	A	様々な国籍の生徒がいるので、中学校3年間で進学や就職など様々な進路へ向けて学習するために、いろいろな工夫が必要なのを感じました。地域でもこのような学校があるのをより周知させるのも必要だと思います。
			3	特別支援委員会で情報共有と対応検討が8回以上	3	学校関係者アンケートで「学校は特別支援教育に良く取り組んでいる」等の肯定的な評価が80%以上					
			2	特別支援委員会で情報共有と対応検討が6回以上	2	学校関係者アンケートで「学校は特別支援教育に良く取り組んでいる」等の肯定的な評価が70%以上					
			1	特別支援委員会で情報共有と対応検討が6回未満	1	学校関係者アンケートで「学校は特別支援教育に良く取り組んでいる」等の肯定的な評価が70%未満					
			4	特別支援委員会で情報共有と対応検討が10回以上	4	教員アンケートで「個別指導計画に基づいた支援を行えた」等の肯定的な評価が90%以上					
			3	特別支援委員会で情報共有と対応検討が8回以上	3	教員アンケートで「個別指導計画に基づいた支援を行えた」等の肯定的な評価が80%以上					
2	特別支援委員会で情報共有と対応検討が6回以上	2	教員アンケートで「個別指導計画に基づいた支援を行えた」等の肯定的な評価が70%以上								
1	特別支援委員会で情報共有と対応検討が6回未満	1	教員アンケートで「個別指導計画に基づいた支援を行えた」等の肯定的な評価が70%未満								

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価														
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等												
	<p>○社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育に取り組む。</p> <p>①キャリア教育のための進路説明会の実施。</p> <p>②高校と連携し、高校受験や就業について学ぶ教育活動を推進。</p>	<p>①夏休み前から進路説明会を複数回の実施。教員間での進路指導情報の共有。</p> <p>②都定時制高校の先生を招聘した進路について学ぶ会の実施。</p>	4	教員アンケートで「効果的な進路指導ができた」等の回答が90%以上	4	4	学校関係者アンケートで「学校は生徒に役立つ進路指導を行っている」等の肯定的な回答が90%以上	4	夏休み前から進路説明会を複数回実施し、教員間で進路指導の情報の共有を行った。東京都夜間中学校研究会を通して、定時制高校10校の先生方と情報交換を行った。	就職希望の生徒がいた時の対応準備のためハローワークとの連携を行う。校内において、高校の先生から生徒向けの話をしていただく機会を企画する。	A	A	夜間中学を卒業した後、高校へ進学する生徒もいて、明るい気持ちに感動した。引き続き多様性の社会に寄り添った指導が行われますようお願いいたします。										
			3	教員アンケートで「効果的な進路指導ができた」等の回答が80%以上		3	学校関係者アンケートで「学校は生徒に役立つ進路指導を行っている」等の肯定的な回答が80%以上																
			2	教員アンケートで「効果的な進路指導ができた」等の回答が70%以上		2	学校関係者アンケートで「学校は生徒に役立つ進路指導を行っている」等の肯定的な回答が70%以上																
			1	教員アンケートで「効果的な進路指導ができた」等の回答が70%未満		1	学校関係者アンケートで「学校は生徒に役立つ進路指導を行っている」等の肯定的な回答が70%未満																
			4	教員アンケートで「高校と連携した進路指導ができた」等の肯定的な回答が90%以上		4	生徒アンケートで「キャリア教育で将来の職業を考えることができた」等の肯定的な回答が90%以上																
			3	教員アンケートで「高校と連携した進路指導ができた」等の肯定的な回答が80%以上		3	生徒アンケートで「キャリア教育で将来の職業を考えることができた」等の肯定的な回答が80%以上																
			2	教員アンケートで「高校と連携した進路指導ができた」等の肯定的な回答が70%以上		2	生徒アンケートで「キャリア教育で将来の職業を考えることができた」等の肯定的な回答が70%以上																
			1	教員アンケートで「高校と連携した進路指導ができた」等の肯定的な回答が70%未満		1	生徒アンケートで「キャリア教育で将来の職業を考えることができた」等の肯定的な回答が70%未満																
			生活指導等	<p>○いじめ、不登校等の予防や早期解決に向けた組織的な取組を行う。</p> <p>①生徒の心のケアの充実、養護教諭やSCとの連携。</p> <p>②いじめ、問題行動、不登校傾向の生徒への早期対応・指導。</p>		<p>①年2回の教育相談期間の設定と情報共有。</p> <p>②毎月の生活指導部会・特別支援委員会での情報共有と対応の検討</p>	4							教員アンケートで「教育相談の内容を共有し指導に活かされた」等の肯定的な回答が90%以上	4	4	生徒アンケートで「先生は困ったとき話を聞いてくれる」等の肯定的な回答が90%以上	4	年3回教育相談を実施し、養護教諭やスクールカウンセラーとの情報共有を行った。学校、学級単位で情報が共有され、生徒指導も即日行った。	特別支援委員会で話し合った内容を学級別会議、職員会議で共有しており、組織的対応を継続する。大きな問題行動は現在見られないが、今後も未然防止を組織的に取り組む。	A	A	慣れない環境でがんばって勉強している生徒さんが多いので、引き続き見守ってほしいと思います。母国の文化を尊重しつつも、日本の生活指導をしていくことは、とても大切なことと思います。
							3							教員アンケートで「教育相談の内容を共有し指導に活かされた」等の肯定的な回答が80%以上		3	生徒アンケートで「先生は困ったとき話を聞いてくれる」等の肯定的な回答が80%以上						
2	教員アンケートで「教育相談の内容を共有し指導に活かされた」等の肯定的な回答が70%以上	2			生徒アンケートで「先生は困ったとき話を聞いてくれる」等の肯定的な回答が70%以上																		
1	教員アンケートで「教育相談の内容を共有し指導に活かされた」等の肯定的な回答が70%未満	1			生徒アンケートで「先生は困ったとき話を聞いてくれる」等の肯定的な回答が70%未満																		
4	教員アンケートで「いじめ・不登校等の諸問題に早期対応できた」等の肯定的な回答が90%以上	4			学校関係者アンケートで「学校はいじめ・不登校への対応をすみやかにしている」等の肯定的な回答が90%以上																		
3	教員アンケートで「いじめ・不登校等の諸問題に早期対応できた」等の肯定的な回答が80%以上	3			学校関係者アンケートで「学校はいじめ・不登校への対応をすみやかにしている」等の肯定的な回答が80%以上																		
2	教員アンケートで「いじめ・不登校等の諸問題に早期対応できた」等の肯定的な回答が70%以上	2			学校関係者アンケートで「学校はいじめ・不登校への対応をすみやかにしている」等の肯定的な回答が70%以上																		
1	教員アンケートで「いじめ・不登校等の諸問題に早期対応できた」等の肯定的な回答が70%未満	1			学校関係者アンケートで「学校はいじめ・不登校への対応をすみやかにしている」等の肯定的な回答が70%未満																		
生活指導等	<p>○基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育に取り組む。</p> <p>①セーフティ教室等を実施し生徒や家庭に対しての啓発。</p> <p>②生活主幹の指導、品性のある生徒の育成</p>	<p>①セーフティ教室の実施と、日本語指導が必要な生徒へのわかりやすい情報提供。</p> <p>②挨拶等の教師による率先垂範。生徒のマナー向上に向けた指導。</p>			4		教員アンケートで「生徒や家庭に生活安全情報をわかりやすく伝えられた」等の回答が90%以上	4	4	生徒アンケートで「セーフティ教室は役に立った」等の肯定的な回答が90%以上	4	日本語指導が必要な生徒への、わかりやすい情報提供を行った。教師から挨拶を行うことで、生徒のマナー向上に向けた指導を行った。	学活などの授業を利用し、日本でSNSを使うときの注意点を伝えていくことを工夫する。常に生徒の母国の文化を尊重しつつ、丁寧な指導をする。	A		A	いろいろ難しい問題に取り組まれているなど思いました。生活習慣の違う人たちを指導することの難しさを知り、努力されていることに敬意を表したい。						
					3		教員アンケートで「生徒や家庭に生活安全情報をわかりやすく伝えられた」等の回答が80%以上		3	生徒アンケートで「セーフティ教室は役に立った」等の肯定的な回答が80%以上													
			2	教員アンケートで「生徒や家庭に生活安全情報をわかりやすく伝えられた」等の回答が70%以上	2	生徒アンケートで「セーフティ教室は役に立った」等の肯定的な回答が70%以上																	
			1	教員アンケートで「生徒や家庭に生活安全情報をわかりやすく伝えられた」等の回答が70%未満	1	生徒アンケートで「セーフティ教室は役に立った」等の肯定的な回答が70%未満																	
			4	教員アンケートで「率先垂範し、生徒のマナーを向上させられた」等の肯定的な回答が90%以上	4	生徒アンケートで「先生はマナーの指導をしてくれる」等の肯定的な回答が90%以上																	
			3	教員アンケートで「率先垂範し、生徒のマナーを向上させられた」等の肯定的な回答が80%以上	3	生徒アンケートの「先生はマナーの指導をしてくれる」等の肯定的な回答が80%以上																	
			2	教員アンケートで「率先垂範し、生徒のマナーを向上させられた」等の肯定的な回答が70%以上	2	生徒アンケートの「先生はマナーの指導をしてくれる」等の肯定的な回答が70%以上																	
			1	教員アンケートで「率先垂範し、生徒のマナーを向上させられた」等の肯定的な回答が70%未満	1	生徒アンケートの「先生はマナーの指導をしてくれる」等の肯定的な回答が70%未満																	

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価					
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等			
学校の管理運営	○学校経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営。 ①学校経営方針に基づいた教育活動の提案・実施。 ②「環境が人をつくる。しかし、その環境は人がつくる。」という認識のもと、物的・人的環境づくり。	①学級別会議、分掌部会、企画会議、職員会議の系統的・機能的な管理運営。	4	学級別会議・分掌部会・企画会議・職員会議の完全実施	4	学校関係者アンケートで「学校は組織的に教育活動を行っている」等の肯定的回答90%以上	4	各会議において、月間PDCAの取り組みより毎月改善点を検討した。	毎月改善点を検討する仕組みを維持するため、担当が入れ替わっても機能するよう分掌分担を整理する。	B	A	属人化しないよう、分掌分担の整理は必要だと思います。		
			3	学級別会議・分掌部会・企画会議・職員会議の実施率95%以上	3	学校関係者アンケートで「学校は組織的に教育活動を行っている」等の肯定的回答80%以上								
			2	学級別会議・分掌部会・企画会議・職員会議の実施率90%以上	2	学校関係者アンケートで「学校は組織的に教育活動を行っている」等の肯定的回答70%以上								
			1	学級別会議・分掌部会・企画会議・職員会議の実施率90%未満	1	学校関係者アンケートで「学校は組織的に教育活動を行っている」等の肯定的回答70%未満								
		①学校施設・設備点検を全員で行い、教員の意識の向上と計画的な環境改善	4	教員アンケートで「教育環境を自分事として改善できた」等の肯定的意見が90%以上。	4	学校関係者アンケートで「学校は計画的に環境改善に努めている」等の肯定的な回答90%以上	4	4	学期毎に定期点検を教職員全員で行い、事務と連携しながら環境改善を行った。	長期休業前など新たな点検時期を導入し、常によりよい環境づくりに取り組む。	A	A	環境をつくるためには、公的な援助を更に求めることも必要です。	
			3	教員アンケートで「教育環境を自分事として改善できた」等の肯定的意見が80%以上。	3	学校関係者アンケートで「学校は計画的に環境改善に努めている」等の肯定的な回答80%以上								
			2	教員アンケートで「教育環境を自分事として改善できた」等の肯定的意見が70%以上。	2	学校関係者アンケートで「学校は計画的に環境改善に努めている」等の肯定的な回答70%以上								
			1	教員アンケートで「教育環境を自分事として改善できた」等の肯定的意見が70%未満。	1	学校関係者アンケートで「学校は計画的に環境改善に努めている」等の肯定的な回答70%未満								
家庭・地域連携	○教育方針や教育活動の様子を積極的に発信する。 ①学校ホームページや夜間学級公開での教育活動の積極的な発信。	①学校ホームページ・夜間学級公開等で積極的に発信する。	4	学校ホームページの更新年間12回以上	4	4	学校関係者アンケートで「学校は積極的に情報を発信している」等の肯定的な回答が90%以上	4	学校ホームページの充実、年3回保護者・地域への公開実施、さらに多方面に対しPR活動を行った。	A	A	まだまだ夜間中学の存在が知られていないので、文中だけでなく区内の中学校との交流などもあると良いと思います。		
			3	学校ホームページの更新年間10回以上		3	学校関係者アンケートで「学校は積極的に情報を発信している」等の肯定的な回答が80%以上							
			2	学校ホームページの更新年間8回以上		2	学校関係者アンケートで「学校は積極的に情報を発信している」等の肯定的な回答が70%以上							
			1	学校ホームページの更新年間8回未満		1	学校関係者アンケートで「学校は積極的に情報を発信している」等の肯定的な回答が70%未満							
	①年2回の昼間部との交流会 ②地域との交流による日本文化への理解推進	①年2回の昼間部との交流会 ②地域との交流による日本文化への理解推進	4	教員アンケートで「中間部との交流会や文化祭等を通して交流を行っている」等の肯定的回答が90%以上	3	4	学校関係者アンケートで「昼間部との交流を行っている」等の肯定的な回答が90%以上	4	昼の1年生をお願いします対象とした交流会と、スポーツ交流の2回実施できた。参加生徒からも好評だった。	交流会の担当を組織の中に組み込むことで、担当が変わっても継続可能な会にしている。	A	A	昼間部生徒との交流や日本文化への理解促進など今後も継続していただきたいと思います。	
			3	教員アンケートで「中間部との交流会や文化祭等を通して交流を行っている」等の肯定的回答が80%以上		3	学校関係者アンケートで「昼間部との交流を行っている」等の肯定的な回答が80%以上							
			2	教員アンケートで「中間部との交流会や文化祭等を通して交流を行っている」等の肯定的回答が70%以上		2	学校関係者アンケートで「昼間部との交流を行っている」等の肯定的な回答が70%以上							
			1	教員アンケートで「中間部との交流会や文化祭等を通して交流を行っている」等の肯定的回答が70%未満		1	学校関係者アンケートで「昼間部との交流を行っている」等の肯定的な回答が70%未満							
		①地域の協力による「ゆかた着付け体験」「伝統音楽鑑賞教室」の実施	①地域の協力による「ゆかた着付け体験」「伝統音楽鑑賞教室」の実施	4	教員アンケートで「日本文化への理解を推進できた」等の肯定的回答が90%以上	4	4	学校関係者アンケートで「日本文化にふれる教育を行っている」等の肯定的な回答が90%以上	4	「ゆかた着付け体験」を地域の方に協力依頼して実施できた。「ふれあいまつり」にブースで参加し、地域交流ができた。	地域交流が生徒の成長に繋がったことから、今後も夜間学級としてのより良い交流を企画していく。	A	A	ふれあいまつりへの参加ありがとうございました。ブースでの参加で昼の生徒や地域の人とも交流ができるかと思っています。
				3	教員アンケートで「日本文化への理解を推進できた」等の肯定的回答が80%以上		3	学校関係者アンケートで「日本文化にふれる教育を行っている」等の肯定的な回答が80%以上						
				2	教員アンケートで「日本文化への理解を推進できた」等の肯定的回答が70%以上		2	学校関係者アンケートで「日本文化にふれる教育を行っている」等の肯定的な回答が70%以上						
				1	教員アンケートで「日本文化への理解を推進できた」等の肯定的回答が70%未満		1	学校関係者アンケートで「日本文化にふれる教育を行っている」等の肯定的な回答が70%未満						

○令和6年度 学校経営報告のまとめ（総括）

・1クラスが最大4名であることを活かし、個別最適な学びを実現することができた。今年度はその効果もあり、進学を希望する卒業生全員が高等学校へ進学することができた。また、学力を大きく伸ばした生徒もおり、いままでは定時制高校への進学が多かったが、今年度は昼の高校への進学が半数を超えた。